

33

### 老松通り商店街のこころ意気

絵や美術を愛するものは老松通り商店街会長の奥さんと、画廊経営者の千福寿々子さんに、老松通りの主な古美術店と画廊をご案内いただいた。

まず、今月26、27日に開くイベント「老松古美術祭」の事務局長として、準備に大わらわの祥雲堂・宮脇英寿社長を訪ねた。

「この2日間、平日よりも幅広い品数と掘り出しものをそろえ、低価格にて、飲食店も含む全店参加で魅力的な祭りにしたい」と意欲を語っておられた。今から楽しみである。

商店会の75周年誌を片手に、寿々子さんのガイドは続く。商店街の入



# 御堂筋のからり

絵・文 熱田親憲

り口にある石の道標の前  
に立った。この石碑には、  
明治36(1903)年に  
100以西の新地寄りに  
建立とあった。老松通り  
は天満宮の参詣道とし  
て、新地の賑わいの門前  
商店街でもあり、粹人や  
文化人の集まる界限でも  
あったという。「この町  
さくさくがいかにも庶民的  
を  
を探し、調達させていた  
だくという姿勢がお客に  
喜ばれています。店同士  
が『お互い様』で繋がっ  
ている結果ではないでし  
ようかと話されていた。

終戦前までは、老松神  
社、老松座を街の句読点  
にして、いろいろな住宅  
つき商店が並んでいた。  
戦後の焼け野原の老松通  
りには平野古陶店が店  
舗を張って、船場の商人  
相手に古美術を買い、同  
業者も集まって専門店街  
の基礎ができた。198  
0年代には美術品の多様

## 懐の深いカルチャーゾーン

におおきな松樹があり、  
神功皇后が三韓征伐のか  
えり、難波の埼で強い風  
波に遭い、この町の海岸  
の巨松に隠れて難を逃れ  
たことから、この巨松の  
下に一社を建てたのが、  
後に老松神社となった。

「三と九の縁日には夜店  
でにぎわった」と書かれ  
ていた。

だ。どの古美術店もそれ  
ぞれ分野・テーマを持ち  
伝統とコンテンポラリー  
なものをうまくミック  
スして、見る人を退屈さ  
せず、商売上の競合もな  
く、仲良く共存してい  
るのである。まさに商店  
街全体が、ひとつの総合  
美術館または美術百貨店  
になっているとみた。

このまとまりはどこか  
らくるのかと、寿々子さ  
んにたずねた。「老松町  
のお店にこられたお客に  
は、納得いくまで横の情  
報ネットワークで美術品

化とお客の大衆化によっ  
て、今日の専門店街が築  
かれていったのである。  
街の姿は最近、長屋的  
町家からビル街に変わっ  
た。生活臭がない無機質  
な雰囲気を残念に思っ  
ていたが、ゆっくりと街を  
歩いてみると、レストラ  
ンから昔ながらの割烹、  
食堂や呑み屋もあって、  
熟年層も飲み込んでくれ  
る竹まいにホッとさせ  
られ嬉しくなった。また  
来てみたいと思う。懐の  
深い街と知り、欲張った  
スケッチ画となった。

